

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

保育の工夫／姫路市立林田幼稚園

子どもたちの思いに寄り添いながら、子どもたちの体験を豊かにするための方向性をもって保育をするということは、学校教育のスタートに位置付いている幼児教育としても、「科学する心を育てる」ためにも、重要なことです。この事例では、保育の工夫を挙げながら、生き生きと活動する子どもたちの様子をご紹介します。



○ 秋の自然体験から製作活動へ／5歳児

保育の工夫

季節の変化や秋の自然を感じる園外保育の機会をつくる。

✦ 落ち葉や木の実拾いを楽しむ

11月、折に触れ園外保育に行く神社は、紅葉がとても美しい。

- 子どもたちは「わぁ、きれい」「いつの間に変身したのかな」「もみじのトンネルや」「この葉っぱ、黄色いなぁ」「赤いのもあるで」「オレンジ色や」「フカフカじゅうたんや」などと言い、紅葉に大はしゃぎしている。
- 「忍者になったみたい」と葉の下にもぐったり寝転んだり落ち葉の上に投げて降らせたりしている。
- 「葉っぱ、かけて」「せえの、しよう」などと友達とかかわりながら楽しんでいる。
- 子どもたちは、落ち葉や木の実を思い思いに拾い楽しむ。
- 葉っぱを拾いながら「手みたい」「ウサギの耳みたい」などとイメージを広げている。
- 帰りには「お母さんにも、教えてあげよう」と言い、もみじの葉や木の実など見付け、大切に持って帰る。



保育の工夫

- 保育者は、子どもの思いを受け止めながら、子どもと「何に見えるかな？」と一緒に楽しむ。
- 保育者は、園に持ち帰った物を分類したり押し葉にしたりして子どもの思いを大切にします。

✦ 木の葉、木の実で作ったよ

- 思い思いに飾ったり、並べたりして遊ぶ。
- どんぐりをカップやペットボトルに入れて振り「こんな音やで」と比べている。
- 持ち帰ったどんぐりや他の木の実、木の葉を組み合わせ、どんぐりの家族を作ったり、動物などにイメージを広げて貼る。

たりして表現している。

環境の工夫

- 保育者は、子どもたちが試したり工夫したりして遊んでいる姿を見守りながら、モデルとして、一緒に作ることを楽しむ。
- 遊びの様子を見たり子どもの要求に応じたりして、素材や材料を用意する。



- 子どもたちは、友達の作品を見たり話を聞いたりすることで「自分ももっと、作りたい」という気持ちになり、たくさんの作品ができる。
- 子どもたちは、友達の姿や作品にも刺激を受け「ここにブランコを作ったよ」「はしごだよ」「私は、鉄棒がいいな」などと、表現したいもののイメージを広げながら作っている。

環境の工夫

保育者は、活動の後で子どもたちの作品を取り上げ、自分の作った作品について話したり友達に見せたりできるようにする。

こうして、木の枝や木の実、木の葉で遊んだ子どもたちは、その後の製作活動でも素材として活かしていた。



✦ 考察

- いつも訪れる神社は四季折々に変化を見せる。緑の木々がいつの間にか、茜色、赤、橙、黄色などの美しいグラデーションに変わっている。『不思議さ』を感じるとともに、たくさんのもみじの美しい紅葉に感動し、『思わず触りたい』『感動したことを伝え合いたい』という気持ちが高まったようだ。
- たくさんのドングリや木の実、木の葉を見つけ夢中で拾い大切に園に持って帰った。自然の美しさや不思議さに子どもの感性が揺り動かされたようだ。
- 「自分で、拾ったドングリ」「自分で探した葉っぱ」というこだわりが創作意欲へと繋がっている。また、友達の製作に刺激を受け、イメージを広げ、試行錯誤しながらいろいろなものを作っていた。
- 製作物を作る上で、保育者がモデルとなるよう一緒に活動をし、材料や素材を用意したり、互いの作品を見る場を設定したりしたことが、活動の広がりにつながっていった。子どもたちが自分で気付き発見する場の設定の大切さを感じた。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」